



『光と風と地域とともに』 —ショートステイ、グループホーム開設—

外観北面



居室（ショートステイ）



共同生活室（グループホーム）

『老後の住まいについて、どのように考えていますか？』
いつまでも住み慣れた地域や家で暮らしたいという願いは、誰しもが望むものです。住み慣れた地域の光や風や匂いによって高齢者が癒され、孤独から解放される新しいホームを作りました。そのホームは、吉川地区に今年の7月よりオープンし、3ヶ月が経とうとし

ています。今回は、グループホーム（認知症高齢者）とショートステイホームをご紹介します。
ショートステイは、全室個室のユニットケア
本館から新館に、機能が移り全室個室となりました。他のご利用者様の時間を気にする事なく、お一人、お一人が自分のお部屋として自由にお使い頂けます。また、ご利用

者のプライバシーが保たれて、初めてご利用者同士のコミュニケーションが活性化します。10室の個室に対し、リビングダイニングを一つ設け、ユニットケア型のショートステイとしました。そこでは、顔馴染みになられた方とお話されたり、時には体操したりし、色々な人と話し触れ合う事を大切にしていきます。またスタッフと散歩したり、

一緒にお出掛けしたりと個々の時間だけではなく、皆が集う時間も大切にしています。ショートステイでは、毎日ご利用者の顔ぶれが変わります。そこで、家庭でもなく、入居施設でもない、ご利用者との一期一会を大切にできる空間を作ろうとしています。

グループホームも開設!!

認知症を患う高齢者を優しく包む空間とは、どんなものでしょうか？生活に必要な認知力を最小限とし、また維持できるように、たおやかな空間が求められます。その答えの一つに、小人数の顔馴染みの関係を基本とする認知症高齢者のグループホームがあります。

豊能町で初めての認知症高齢者の専門施設であり、8月から受入れを開始しています。町民の皆様のご期待に添えるべく、意味のあるものを創ろうと私たちも張り切っています。認知力にハンデを持つ9名の方々とともに、落ち着いた家庭的なホームにしようと考えています。ご家族から見ても、ご自宅から少

し離れたところにお部屋が出来たと思っていただけるような、身近で暖かいホームを目指します。

豊かな自然の中、地域に根ざした施設として、ショートステイ・グループホーム共々皆様に可愛がられるよう、また関心を持っていただきます。ぜひ一度、このホームを体感してください。



グループホームの玄関です

お知らせコーナー

グループホームのご入居は8月25日から始まりました。ショートステイ同様、併せてご見学ください。

*見学の際、事務所にご一報願います。



笑雲

しょううん

第38号
発行
平成20年9月14日

祥雲館

社会福祉法人 桃林会

〒563-0101
大阪府豊能郡豊能町吉川187-1

TEL: 072-733-2301

FAX: 072-733-2303

周辺案内図





吉山盆踊り

8月9日、利用者の方々と「吉川盆踊り」に参加させて頂きました。毎年地域の方々と、楽しい時間を共にさせて頂いています。

委員会だより

今回は地域啓発ニーズ調査委員会を紹介します。

地域啓発ニーズ調査委員会では、地域における祥雲館の役割を考え、委員それぞれが、地域に貢献できる活動をおこなったり、祥雲館が地域にどうあるべきか、模索し、施設内に啓発していくこと、またボランティアの方々の連絡・調整役として目的に活動しています。

ボランティアを始めたいとお思いの方や、活動
をされている方とのつながりや思いを大切にし、
活動しやすいように働きかけることを目標として
活動しています。

新しくボランティア活動をしてみようとお考えの方は、当委員会までご連絡ください。

地域啓発二一ス調査委員会委員長 並川 岳彦



ツ
ハ
ビ
ツ

豆
知
識

立秋を過ぎててもまだまだ残暑厳しいこの頃、皆さんお元気ですか？ オリンピックの北島選手の金メダルは勇気づけられる感動的な夏の思い出になりました。

さて、今回のニニムスの写真
 真は、僕が診させて頂いて
 いる女性がミシン作業によ
 って作られた作品です。そ
 の女性は脳梗塞の後遺症に
 よって右半身に麻痺が残る
 状態にあります。ただ物事
 に対してとても前向きで、
 好奇心、探究心が旺盛で特
 にご自身の病気に対する知
 識の習得にはすごく貪欲で

紙ヒコーキ 編集後記

今年も8月中旬には連日30度を越える猛暑が続
き、外に出るのも嫌な日が続いていました。その時
期はお盆ということもあり、家族で墓参りに出かけ
ました。昔は親に連れられて、暑い中お墓の掃除や
まわりの草むしり等、あまり良い思い出がありません。
そんな中、両親に「年に一度、こうやってご先
祖に感謝をするの」と言われたことを覚えていま
す。まわりの親族やご先祖あつての自分。そういっ
た“感謝”の気持ちを忘れずにということなのか
と、子どもながらに思ったことを思い出します。

今では私も二児の父。子どもたちにもそういった“感謝”する気持ちをもって、育ててほしいと願います。
(川又大志)

次回の発行は平成20年11月9日(日)です



す。一般的に中枢神経疾患において随意運動をすることによって筋肉の緊張が亢進し(連合反応)、体を動かすのが難しくなることが観察されます。この女性もミシン作業によって連合反応が働き麻痺側の筋緊張が亢進したことは容易に推察できます。

今回、僕が伝えたいことは、目的を達するには常にリスクを伴うということです。例えば歩行訓練にはあ

る時期に転倒、骨折の危険が生じることもあります。自分自身の体について、運動機能、生活レベルなど一度考えを巡らすことも良いと思います。良き相談相手（病院の先生、病気を体験した友人など）を持つこと、交流の場に参加するのも良いかもしれません。いかにリスクを軽減できるかを考えることが重要です。

作品は利用者さんを診させて頂く器具を納めるカバン、ふでばこ、聴診器の耳あてです。とても重宝しています。

夏草や兵どもが夢の跡
松尾芭蕉

デイサービスセンター 祥雲館
理学療法士 大西憲久